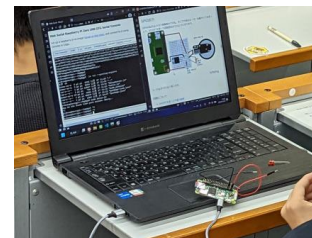


ハッカソン概要

日時： 2022年12月17日(土)– 18日(日) ※ハッカソンに先立ち、ハンズオン講習会を 2022年11月26日(土)–27日(日)に実施。
 会場： 愛媛大学 城北キャンパス
 主催： Web×IoT メイカーズチャレンジ PLUS 愛媛運営委員会 / (株)愛媛CATV
 共催： テレコムサービス協会四国支部
 協賛： 四国情報通信懇談会、(株)愛媛銀行
 協力： 愛媛大学、日本Androidの会四国支部、Web×IoT メイカーズチャレンジ PLUS 中央実行委員会
 後援： 総務省 四国総合通信局、愛媛県、松山市、Beyond 5G 新経営戦略センター、日本ケーブルテレビ連盟
 概要： センサーやモーターなどをWeb標準技術(JS)から制御する方法等、講習会で学習した知識や技能を活かして「愛媛を愛顔(えがお)にするIoTデバイス」をテーマにしたハッカソンを行い、チーム毎に作品の出来栄を競った。
 参加者： 高校生2名、専門学校生11名、大学生1名、大学院生1名、社会人4名 計19名(4チームがハッカソン参加)



教材環境
CHIRIMEN
Raspberry Pii
Zero W

最優秀賞： 観覧車のための自動観光アナウンスキット (チーム名： 愛媛の魅力を発信し隊)

観覧車での遊覧中、ゴンドラの位置に応じて各地点から見える観光名所を自動アナウンスすることで、名所の魅力発信を支援するIoT作品。今回のデモでは、タッチセンサーと導電性銅箔テープでゴンドラ位置を把握し、各地点の観光名所を音声でアナウンス、名所の風景写真を表示する仕組みになっている。本作品は路面電車などの乗り物を対象にした自動観光アナウンスとしての応用も期待できる。



目的	主に初学者を対象として、標準技術やOSS利活用についての理解を深めながら、シングルボードコンピュータ等を使ったハンズオン形式の講習会やハッカソンでの開発体験を通し、実践的なスキルアップの機会提供を行い Society 5.0 時代に特に必要とされるエンジニア人財の育成を目指す。			
使用教材環境	CHIRIMEN for Raspberry Pi Zero (Node.js*1から Web GPIO API*2 と Web I2C API*2 を扱う方式によるIoTプログラミング学習・実験環境。Raspberry Pi Zero に接続した電子部品をブラウザアクセスしたPCからプログラミングする) *1 JavaScript言語でWebサーバを構築するための開発環境 *2 汎用インターフェースであるGPIO/I2C経由でブラウザからセンサ・アクチュエータを直接制御するためのAPI			
ハッカソンテーマ	「愛媛を愛顔(えがお)にする IoT デバイス」			
運営委員会	主査	白石 成人氏 (株式会社愛媛CATV専務取締役、テレコムサービス協会四国支部事務局長)		
	参画自治体	松山市、愛媛県		
	参画教育機関	愛媛大学		
	事務局	株式会社愛媛CATV		
	ハンズオン講習会		ハッカソン	
日程	2022年11月26日(土) - 27日(日)		2022年12月17日(土) - 18日(日)	
会場	愛媛大学総合情報メディアセンター1階ホール		愛媛大学リージョナルcommons地域交流スクエア	
参加者数	20 名		19 名 4チーム	
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 座学講習 (標準技術とOSS利活用の意義) Raspberry Pi Zero 版 CHIRIMEN を使ったハンズオン講習 ハッカソンに向けてのアイデアワークショップ 		<ul style="list-style-type: none"> チーム毎による作品制作(ソフトウェア/ハードウェア) 成果発表会(作品のデモ) 作品審査および結果発表 	
講師／審査員	講師	座学講習 (標準技術とOSS利活用の意義) 講師: 深見 嘉明 氏 (東京理科大学経営学部 国際デザイン経営学科)	審査員	平野 幹 氏 (愛媛大学 データサイエンスセンター長 / 大学院理工学研究科 教授)
		ハンズオン 講師: 渡邊 浩平 氏 (一般社団法人 WebDINO Japan シニアエンジニア)		兵頭 洋平 氏 (愛媛銀行 お客様サービス部 デジタル戦略室 調査役) 神田 剛 氏 (総務省 四国総合通信局 情報通信部長) 柴田 祐輔 氏 (愛媛CATV 経営戦略室室長 兼 技術担当部長) 高木 悟 氏 (KDDI次世代運用推進本部 運用システム開発部 / WIMC PLUS 中央実行委員会 主査)
表彰	最優秀賞: 作品名「観覧車のための自動観光アナウンスキット」(チーム名: 愛媛の魅力を発信し隊) メンバーは、専門高校生4名、社会人1名の5名チーム。 特別賞: 作品名「cyclIoT」(チーム名: cyclist) メンバーは、専門高校生3名、大学生1名、社会人1名の5名チーム。			
その他 (地域の特色など)	<ul style="list-style-type: none"> 過去に国費開催経験を持たない地域での初開催。 日本ケーブルテレビ連盟と四国総合通信局が開催計画を支援。事務局および運営主体は、地元ケーブルテレビ事業者の(株)愛媛CATVが担当。 今年度は初めての開催のため、中央実行委員会事務局(WebDINO Japan)が積極的にイベントの開催支援を行った。 			